

改訂にあたって

初版以来、8年が経ちました。掲載した資料の中には、最新のものに替える必要があり、改訂にあたって多くの図表を改めました。これらのデータの推移をみる限り好ましい方向に進んでいないことに気づかされます。特に、温室効果ガスである二酸化炭素は、確実に増加し、世界的に数十年に一度という異常気象が多発しています。

歴史から消滅した社会、「文明崩壊」には、環境破壊が深く関与していることを明確にしたジャレッド・ダイヤモンドは、現代文明における12の環境・人口問題として、①自然破壊、②地球温暖化、③種の多様性喪失、④土壌浸食、⑤化石燃料の枯渇、⑥水不足・異常気象、⑦人口の急増、⑧化学物質汚染、⑨外来種による在来種の被害、⑩漁業資源の枯渇、⑪光合成で得られるエネルギーの限界、⑫一人あたり消費エネルギーの増加、を取り上げその一つでも対策に失敗すれば、50年以内に現代の文明全体が崩壊の危機に陥るでしょうと指摘しています。

これらのどれをとっても対策は容易ではありません。一方、世界に目を転ずれば、文明衝突に近い紛争が多発しています。健康志向で未来を考えるならば、一つ一つ解決するしか道はありません。本書がその一助となることを願っています。

また、近年、新型インフルエンザの流行があり、文明病とされるアレルギーは増加の一途をたどっています。2011年には、東日本大震災が発生し岩手、宮城、福島沿岸部は甚大な被害を受けました。地震と津波によって福島第一原子力発電所では重大な事故が起き、大量の放射性物質によって広い地域が汚染されました。今回の改訂では、これらを理解するための基礎的事項を増補しました。

最後に、本書の出版にご尽力をいただくも病で他界された石山慎二さんのご冥福をここからお祈りいたします。

2016年1月

著者代表 佐々木胤則

はじめに

本書を手にとっていただき、ありがとうございます。本書は、環境問題と健康問題は本質的に同じであるという趣旨に基づいてまとめられています。公衆衛生の立場から「環境と健康」を主題とした成書がしばしば出され、いずれも優れたものですが、本書では、環境と人を含めた生物は相互依存の関係にありながら時間と共に常に変化し、想定外の健康問題を引き起こしてきているという点を重視しています。グローバル化に伴う感染症や貧困の拡大、豊かな社会で増加するがんや生活習慣病、高度情報化社会に伴うメンタルストレスの増加、便利で快適な生活と裏腹に進行する地球の温暖化やアレルギーの増大などは、予想されていたとしても現実に生活と生命を脅かすものとしては予期されていませんでした。

とりわけ地球温暖化の進行は実感されるものとなり、もたらされる影響の大きさも種々の立場から指摘され、裏付ける兆候が世界各地から報告されています。持続可能な発展は、消費エネルギーを大幅に減らしながら模索して行かなくてはなりません。地球の温暖化については、懐疑的見方も少なくありませんが、本末「待ったなしの地球温暖化対策」の項で、一応の結論が出されたものと思われます。快く共著者として加わってくださった山本良一先生に感謝します。

今日の問題は、環境の変化に伴って必要とされる発想や対応の転換が遅れて、対策を複雑にしているように見えます。環境の変化とそれに伴う影響の認識不足や警告の過小評価が要因とされますが、気づいたらすみやかに行動するという規範が求められます。本書では、不十分ながら問題に対する対応や対策について言及しています。ご意見やさらなる提言をいただければ幸いです。

本書の作成にあたっては、多くの著書、論文、インターネット上のさまざまな意見を参考にさせていただきました。参考とさせていただいた著者方々に深く感謝すると共に、企画の段階から助言、協力をいただいた三共出版の皆様に深く感謝致します。

2007年9月

著者代表 佐々木胤則